

「光の道」構想に関する意見

意見提出元	個人
意見項目	意見内容
<p>1. 超高速ブロードバンド基盤の未整備エリア(約10%の世帯)における基盤整備の在り方についてどのように考えるか。</p>	<p>光orADSLを含めた未整備エリアが約10%ということであり、光での未整備エリアはまだ多い(地方のRTビルや山間部のコストのかかるエリア等々が残っている)。未整備エリアにおける、現在のメタル設備は老朽の極みの状況にあり、基盤未整備エリアについては、採算ベースの整備が難しく、整備には多大なコストが想定される。情報の最大活用による社会及び経済発展を確実にするためには、情報のインフラ整備である全光化は、国民視点あるいは企業支援の観点から、義務的な使命であり必須と考えるが、NW基盤を支えるMHや電柱等々の基盤維持整備及びメタルから光への移行期における維持費等々を含めた在り方の検討を望む。</p>
<p>2. 超高速ブロードバンドの利用率(約30%)を向上させるためには、低廉な料金で利用可能となるように、事業者間の公正競争を一層活性化することが適当と考えられるが、NTTの組織形態の在り方も含め、この点についてどのように考えるか。</p>	<p>■利用率(約30%)を向上させるためには、手ごろな料金で利用可能にすることは必要であるが、現状サービスやコンテンツでは「光」を「ブロードバンド」さえも必要としないお客様(住民)も大勢いる。</p> <p>そうしたお客様が“必要とする”、“必要だ”“使いたい”と実感できるサービスやコンテンツが視える仕組みを作り、「遠隔医療や行政サービス」「光でなければ出来ない利用方法は何か」「利活用を妨げる各種規制の見直し」等、一部の人の議論ではなく、“広くお客様が”、“地域住民の方”が視える形で時間をかけた議論を進めて欲しい。</p> <p>■事業者間の公正競争を一層活性化することは必要であるが、日本の情報通信の将来を考慮すると海外にも目を向けた国としての政策が重要と考える。国内の競争から海外で競争力のある事業者をどうするのか、等々を含めたNTT組織体制の在り方を議論してほしい。</p>